

令和4年度有識者懇談会でのご意見と対応状況

資料3

業務	R4意見	発言者	対応状況と今後の方針
施設運営	福島県全域の子どもたちすべてが伝承館やその周辺地域を「体験」してもらうことが大切。教育委員会などと連携し、このような経験を通しての人材育成を行う仕組みがあればよい。	川崎委員	例えば、県内の中学校は中学在学時に必ず伝承館へ教育旅行で来るような仕組みを県に働きかけていきたい。これまでは県内の学校が伝承館に来る際にバス代の補助が出ていることもあり、多く来館いただいているが、今後補助がなくなるとも聞いているところであり、何らかの仕組みづくりが必要だと認識しています。
施設運営	県内の子どもは教育旅行で1回は必ず伝承館にくるようにするべきだと、かねてより福島民報紙面で展開してきた。伝承館として積極的に県とか県教委や学校の現場の先生方に働きかけてほしい。	鞍田委員	
施設運営	「学術研究集会」は素晴らしい会であった。5年度開催するのであれば、福島大学の関係部署にも呼びかけつつサポート、手伝いをおこないたい。	前川委員	令和5年度も学術研究集会を開催し、令和4年度を上回る研究発表がありました。今後も継続して開催する予定であり、研究部門と相談しながら外部の運営サポート等も検討していきたい。
施設運営	県教委の語り部育成事業は、県内高校に浜通り、伝承館への訪問を促している。その効果はすでに生徒の活動成果に表れていると感じている。伝承館はそういった人のための拠点、伝承活動の拠点となりうる。伝承活動をつないでいくための「福島の拠点」としての役割を期待している。	青木委員	引き続き、震災伝承の拠点として役割を果たせるよう、語り部を中心とした取組を継続していきます。
展示	現在の第5ゾーン「復興への挑戦」の展示は「教訓なき復興」の展示であると感じている。県民の声、住民の声をつなげていった教訓を踏まえた復興をすすめていく上で、その教訓とは何かを考える「教訓のゾーン」にすることを提案する。	前川委員	震災・原子力災害の教訓は何かという大きなテーマであり、十分な時間をかけて展示内容を検討し、大規模な展示替えが必要だと考えています。県と相談しながら準備を進めていきたい。
展示	「教訓と復興に向かう福島の今の姿を発信する」ため、前川先生のアドバイスのもとにぜひとも良い見せ方をしてほしい。特に前段分と後段分のつなぎのやり方。	守岡委員	特に第5ゾーンの見直しについては、現在進行形でもあるため、委員の皆様にも意見を頂戴しながら時間をかけて進めていきたいと考えています。
資料収集	被災体験の収集について、「集めています」の受け身でなく、伝承館側から取りに行く、聴きだす活動に目を向けることが必要。	大場委員	令和5年度後半の企画展「人が語る原子力災害」で、11名の被災者の証言を取り、記録しました。このような被災の経験を記録する取組を継続していきます。

業務	R4意見	発言者	対応状況と今後の方針
情報発信	SNSにおけるタグの使い方は重要。館内にハッシュタグを示すものが少ない。”福島伝承館”とか何か特定の統一したものを継続することはピンポイントで検索されるうえで重要。SNS, Twitter, Facebook やってますの情報も少ない。	大場委員	令和5年度は、企画展等の準備の様子や、開催中の情報発信も行ったところであり、引き続き、効果的な方法を意識しながら発信していきます。
展示	フィールドワークは子どもたちにとって重要と考える。事前学習をすっかり積んでから実施している様子。この事前学習に伝承館がどこまで関わるができるかが今後の課題と思っている。	小野委員	事前学習に役立つ教材の作成など、事前学習の支援について検討します。
展示	報道機関の視点からすると、原発を見たいので廃炉資料館、はわかりやすい。伝承館の中身に対し関心の薄いところがあり時間に余裕があっても伝承館まで足を延ばすようになっていない。そこをどういうふうにアピールしていくか、研究していただければと思う。例えば、復興状況など福島の今はこうということを説明できる公的場所はないので、伝承館が担うことが一番よろしいのではと思っている。	小野委員	廃炉資料館（東電）と伝承館（県）は、電力事業者側と地域・住民側という違った面で震災を扱っており、相互に補完し合う施設だと考えており、広報での協力など引き続き連携していきます。
研究	「学ぶべきものは何なのか」を研究の仕掛けの中で、しっかりとすり合わせていくことが必要。	小沢委員	原子力災害の教訓は何かという点について、今後の調査研究の成果も踏まえながら展示に反映できるよう検討していきます。
語り部	語り部さん、あるいは伝承館はきちっと教訓を伝えること、それに特化することが必要と考える。	前川委員	正確な情報を伝えるとともに、何を教訓として伝えていくのかという点も検討していきます。
展示	まずは一次情報をしっかりと残すこと。対立や分断を乗り越えた、あるいは乗り越えられなかった県民の歩み、これを伝えることでそれからどういう教訓を目指すかが一つの問題になるかと思う。	丹野委員	原子力災害は様々な側面があり、関係する情報は多岐にわたるので、資料・情報の収集・保存という伝承館事業の基本部分を継続していきます。
展示	今12年経ってこういう様々な課題を日々生み出しつつあるというのは原子力災害だったからに尽きるんだろうと思う。	鞍田委員	現在進行形の災害であることが福島の複合災害の大きな特徴であり、最新の情報をキャッチしながら展示に活かしていきたい。令和5年度は処理水放出のパネル追加や除染コーナーの見直しを行いました。

業務	R4意見	発言者	対応状況と今後の方針
展示	震災当時ここで福島で何があったかということと、本当にどんなことがあってどんな人がいてどんなふうはこの震災を乗り越えてというところを伝えられるのがこの伝承館の一番やっていくべきことと 思っている。	大場委員	令和5年度は人に着目した企画展を実施しました。この地域と人の姿を伝えていくのが伝承館の役割であり、語り部と展示を中心にしっかりと取り組んでいきます。
一般研修、展示	様々な体験を様々な立場の人々が発信する。その場を提供するのが伝承館の役割と思っている。お願いが2点。①40分という時間では聞いてくれる人との対話が全然できない。時間設定を再考願いたい。②オープニングに聴覚障がい者のための字幕をつけてほしい。また、手話通訳者に入館料を課さないようにしてほしい。	青木委員	①語り部の時間については、時間が長いという意見もあり現在の40分に設定しているところであり、引き続き検討します。 ②今年2月にプロローグシアターの映像に日本語字幕を追加しました。手話通訳の方の入館料免除については実施に向けて検討します。なお、今年4月から障がい者の同伴者の方の免除範囲が拡大しております（県の条例改正に伴うものです）。
展示	客観的事象、正確な情報を伝承館で発信することが大事。	守岡委員	原子力災害については様々な考えがありますが、伝承館は公式なデータや報告に基づき、客観的な情報発信に努めていきます。
研究	原子力災害から復興に関しては今なお公的機関によっては調査検証が行われていない。検証を行う核というもののなかにおいて伝承館は大きな役割を果たせるのではないかと。教訓や、防災・減災も含め研究活動を進めることになるのではないかと思う。	川崎委員	原子力災害の教訓を導き出し、将来の防災・減災に寄与することは、伝承館の調査研究の大きな目的であり、F-REIとも連携しながら研究活動をしっかりと進めていきます。
研究	これまでの過程・経験は確実に提供できているが、これから先の部分、福島が経験した複合災害を踏まえた防災というものの提示には至っていない。この点が伝承館の課題と思う。	小沢委員	